

Movie Review 29 #ピエロがお前を嘲笑う

『#ピエロがお前を嘲笑う』(2014 年、バラン・ボー・オダー監督)を amazon prime video で視聴した。ドイツ・アカデミー賞で 6 部門にノミネートされた。

どんでん返し映画という触れ込みに心惹かれて視聴した。見終わって思うことは、これまでのどんでん返し映画(『ファイト・クラブ』や『シックス・センス』等)のその裏をゆくという感じだった。

尋問者の事情聴取で過去の話をする場面から映画は始まる。ここで話された内容が全てフェイクなのか、そう見せかけて実は真実なのか。それがまさにこの映画のトリックなのかもしれない。タイトルにあるようにピエロに嘲笑われているようだ(Clowns laughing at you)。

数々のハッキング事件を起こした上、殺人容疑をかけられて指名手配されていた天才ハッカー B が警察に出頭する。B は捜査官の H にこれまでの経緯を語る。仲間とハッカー集団を結成し、遊び半分でハッキングを繰り返していたが、自分が盗んだ情報がきっかけで殺人事件が発生、命を狙われているというのだ。H は B の供述にもとづいて捜査を始めるが、証言の内容と食い違う点が次々と明らかになってくる。

コンピューター内での起こっていることを、地下鉄内でのピエロの仮面をかぶった人物と顔に X を描いた仮面の人物との争いに置き換えて描いているところは斬新である(単にプログラム言語を羅列してもピーンと来ないだろう)。

どんでん返し映画を観すぎている人には、こう来たかと驚くかもしれない。

AI による本作の考察を見てみよう。

ピエロが嘲笑うことで、主人公や視聴者が抱える「欺瞞」、「虚偽」、「自己欺瞞」といったテーマが浮かび上がってくる。ピエロの笑い声は、これらのテーマに対する嘲笑や批判的な視点を表しているのかもしれない。

また、映画の展開自体が、視聴者を騙し、真実を隠すことで、現代社会における「情報過多」や「真実の曖昧さ」といった問題も暗示しているようだ。

さらに、特別な美女というわけではない俳優たちの起用は、誰でも騙され、誰でも被害者になりうるというメッセージを伝えるかもしれない。

このように、「ピエロがお前を嘲笑う」は、単なるサスペンス映画にとどまらず、

社会問題や人間の心理を深く考察する作品であると言える。